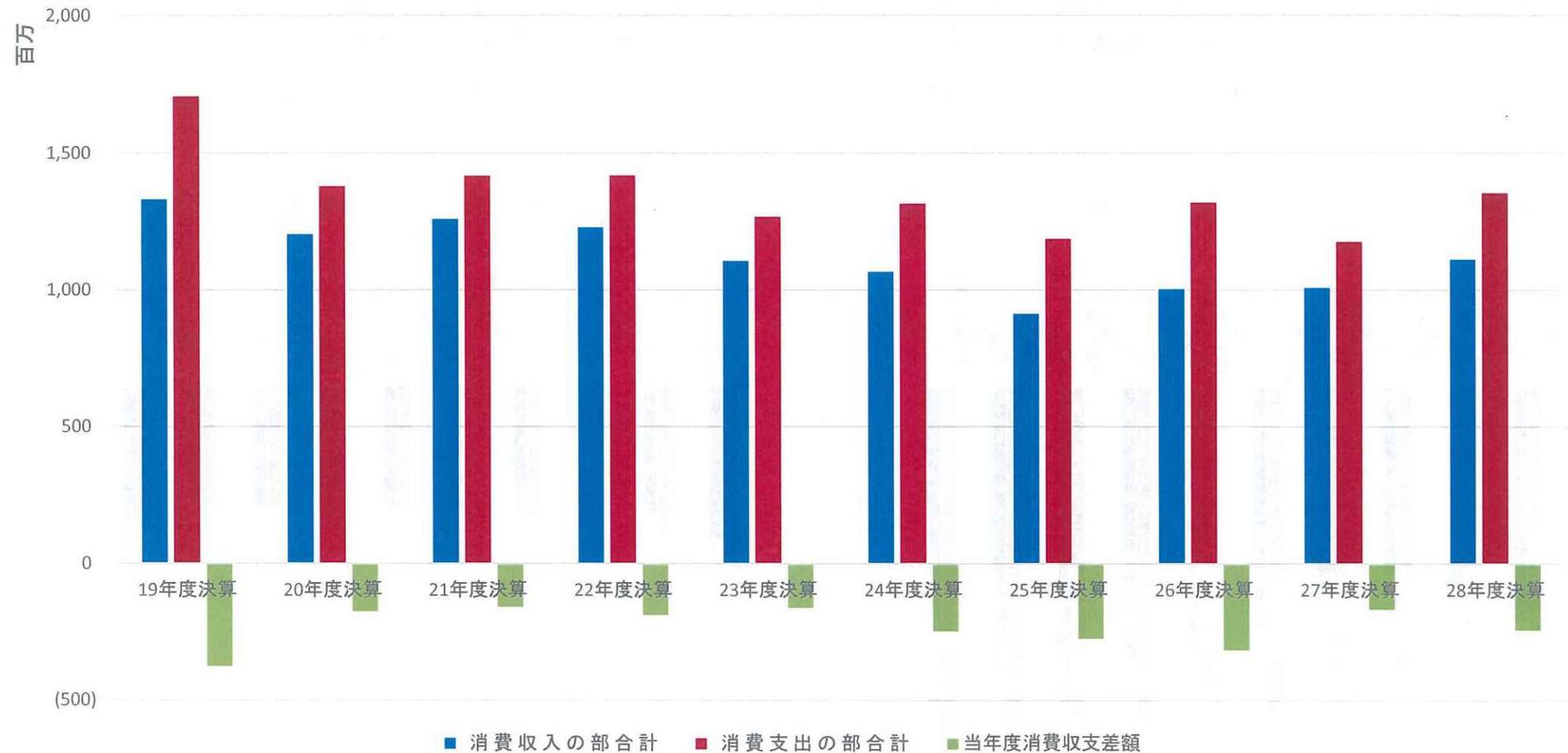


学校法人柏専学院

1. 学院経営方針 2020

1. 財務内容の推移(学院全体)

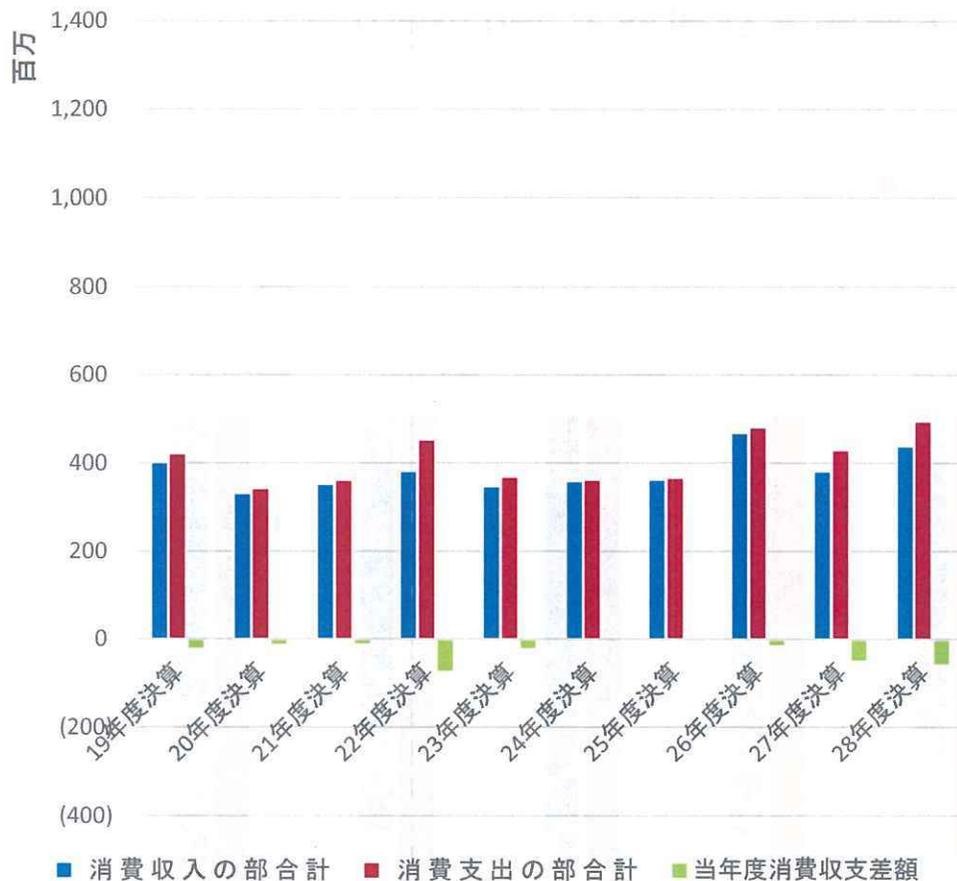
学校法人柏専学院財務推移



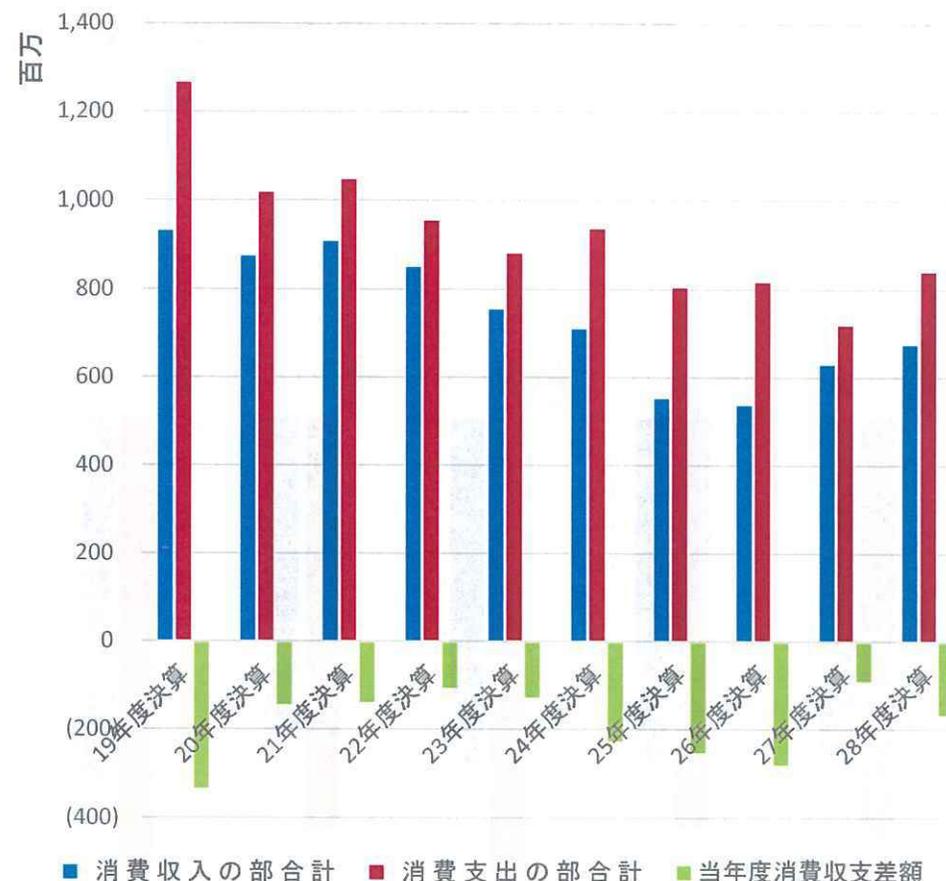
ここ10年の間、2設置校を運営する学校法人柏専学院の財務状態は、
単年度の収支差額でマイナスの状況が継続しています。

1. 財務内容の推移(設置校別)

高等学校財務推移



大学財務推移



設置校別の財務状況を分析すると、大学部門において大幅な収支差額のマイナスを計上しています。高等学校においても、経営状態は良いとは言えませんが、単年度の消費収支の差額については、減価償却の範囲内にとどまっており、運営経費で資金が流出する事態には陥っていません。

2. 学生生徒数の推移(設置校別)

高等学校生徒数推移



大学学生数推移



私学の経営において最重要の学生生徒数の推移については、高等学校は多少の波はあるものの、堅調な推移を見せています。通学圏の人口減少の見通しと県教育行政による県立高校の統廃合情報等を踏まえながら、今後も魅力化を図っていきます。

一方の大学においては、上記のグラフ期間以前から続く入学者数の減少がここ数年でやっと食いどまり回復を見せていますが、改善傾向は鈍化の見通しとなっています。よって、さらなる改革が急務となっています。

3. 経営ミッションとガバナンス強化

経営ミッション＝建学の精神

人格の陶冶を通して主体的自我を確立し、新しい時代感覚をもって社会に貢献する人間を育成する。

今後の経営再建の軸は、本学院の建学の精神となります。ここに立ち返り、新たな時代にマッチした価値を創出していきます。一方、この建学の精神の中にある「社会」というワードを、今回新たに再確認して定義しました。それは、『**地域社会**』です。

大学は、もともと公私協力方式で設置され、地域へ貢献することを期待されていきました。したがって、この定義は非常に親和性があります。

一方で高校は、その教育理念・目標は、必ずしも地域オリエンテッドではありません。しかしながら、そもそも高校とは、一部の全寮制高校や広域通信制高校を除けば、入学生も地元生が大半で、常に地元地域と密接に関わって存在しており、言わば、存在そのものが地域連携になります。

したがって、本学院はこれまで以上に地域連携を意識、強化することで、再建計画を描きます。



ガバナンス強化



「地域オリエンテッド」な学院経営と、地域に対して直接的・間接的に貢献する教育研究を実践する設置校の運営のため、**地域を理解した理事を登用**します。

また、学外理事を中心に、経営の健全性や計画遂行の評価、あるいはコンプライアンスといった分野を担当するプロジェクトを立ち上げます。

さらに、学長・校長といった部門長が、その立場以上に学院全体の経営を担う理事であることを意識して実践できるよう、必要に応じた研修等を実施します。

4. 設置大学の方向性・コンセプト

これまで、設置形態・経営形態の議論が先行してしまった経緯はありますが、その前に、現に柏崎の地に存在し、教育研究活動を行っている新潟産業大学が、高等教育機関として新たにどのような「魅力」を打ち出し、どのように「社会へ還元」していくか、具体的には「柏崎市の活性化にどのように貢献できるか、それをいかに実現するか」を主軸として、今一度その在り方を検討しました。

その結果、下記を中核コンセプトとした大学作りを推進します。

～産官学協働の地域実践教育大学～

グローバル時代における地域の産業・文化の振興と、
地域社会が抱える課題解決に取り組む。

柏崎市の最重要課題である「人口減少・少子高齢化の同時進行への対応」のために、産業界・行政と緊密な協働関係を構築し、**地域の未来に向けて**、教育・研究を通して地域課題解決に取り組めます。

この先の詳細なVisionやPlanは後述します。

5. 設置高等学校の方向性・コンセプト

～柏崎から進学と部活で全国へ～

「部活で燃えろ！進路で輝け！」

教育目標／教育方針

目標

上品で逞しい生徒の育成

1. 人生観の指導と自信のある生活態度
2. 学習意欲と能力の向上
3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

方針

「生徒一人ひとりを大切に」することを基本に据え、

「部活で燃えろ！進路で輝け！」を合言葉に、「全国に名高い部活動・進学校」を目指す



柏崎の地で、柏崎の子どもたちを預かり、柏崎から全国、そして世界へ羽ばたく人材を輩出してきました。

今後も、**地元**に愛され、**地元**に期待され、**地元**の子たちが安心して進学できる学校作りをいたします。

そのために、常に社会と時代の変化に対応しながら、教育的魅力を打ち出し続ける体制を構築します。

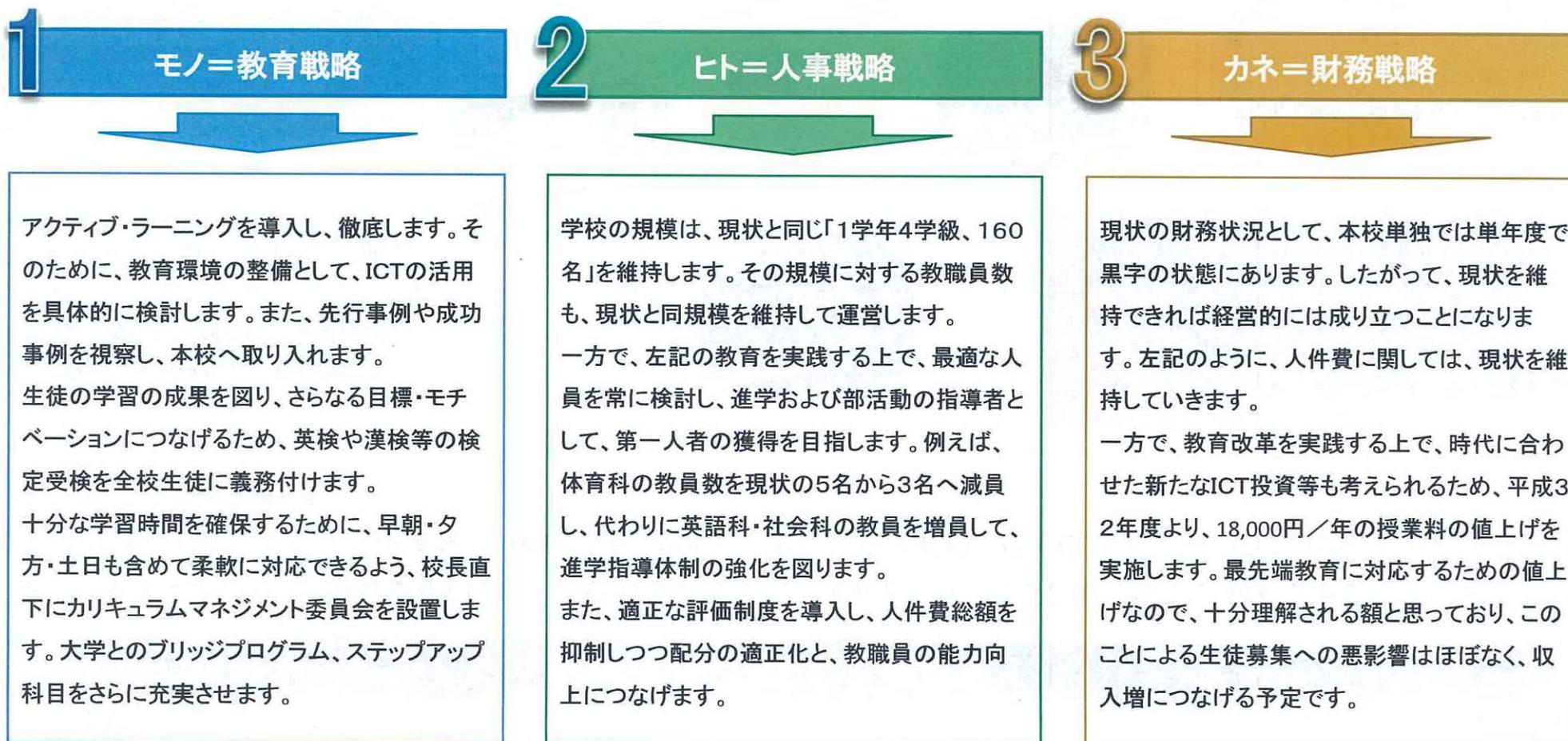
結果として、柏崎から他地域へ生徒が流出することが防げ、逆に他地域からの流入を促すことができれば、地域振興にも寄与できると考えております。

6. 設置高等学校の中期計画の骨子

ヒト／モノ／カネの計画

世間では、大学進学対象の18歳人口の減少に関する「2018年問題」が話題になっておりますが、高校の生徒募集現場においては、3年前にその問題に直面しております。そのような環境下において、本校では、わずかなら入学者を増加させています。これは、これまでの本校の取り組みの成果であり、評価されてのことと自負しております。

しかしながら、今後ますます少子化傾向が続く中では、これまで以上の努力も必要と感じています。そこで、経営資源の3要素である「ヒト／モノ／カネ」に着目して、以下のように中期展望を描きます。



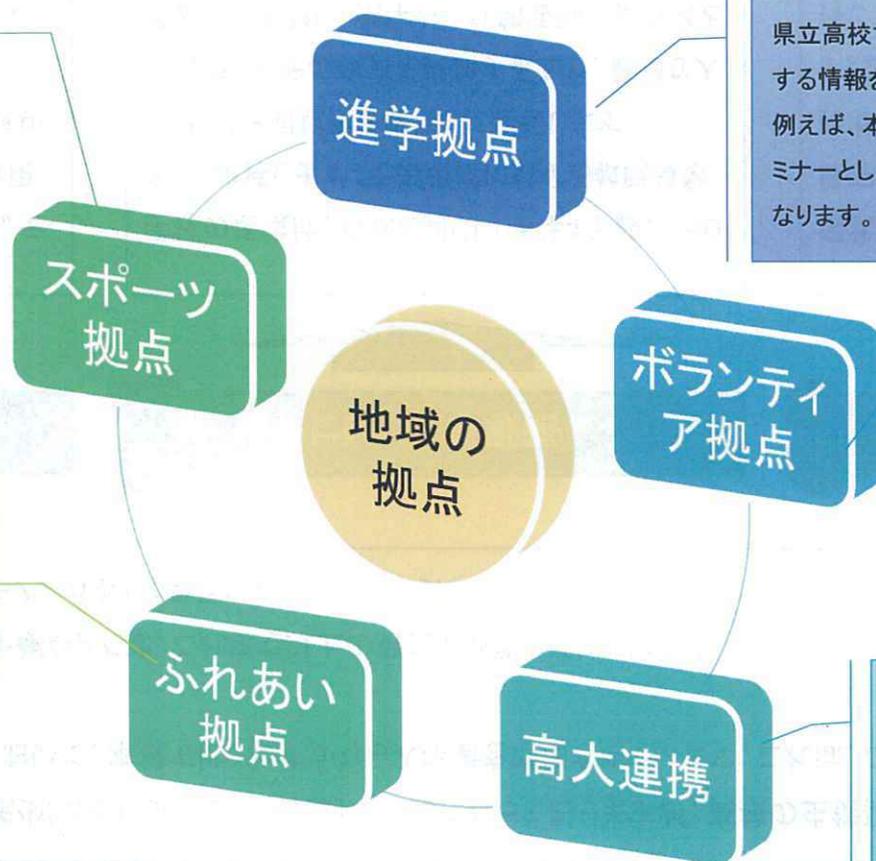
6. 設置高等学校の中期計画の骨子

教育改革にさらなる価値を！

本校の教育目標は必ずしも地域貢献ではなく、地元から広い社会へとつながることですが、やはり、地元地域との連携なくして高等学校は成り立ちません。そこで、地域と連携する施策を企画しながら、それによって本校の生徒に対してもさらに価値ある教育を提供できるような高等学校作りを目指します。

本校は、数多くのスポーツ系部活動で実績を上げております。直近でも、駅伝で全国大会に出場しています。
そうした中で、地域の小中学生を中心に、一緒に活動できる場を今後は多数企画していきます。

体育館をはじめ、本校の施設設備をできる限り地域住民に開放できるようにします。
さらに、地域住民が参加できるイベントを企画します。
様々な世代の人とのふれあいを通じて、本校生徒の成長も期待します。



県立高校ではできない、私学ならではの進学指導や進学に関する情報を、地域に広く公開します。
例えば、本校生徒・保護者向けの説明会やセミナーを、公開セミナーとし、将来の大学進学を検討する地域住民の情報源となります。

本校の生徒が参加するボランティア活動に共同で参加できる仕組みを構築します。
特に地元の小中学生が参加しやすいプログラムを企画し、早い段階から社会貢献を体験できる機会を作ります。

新潟産業大学との連携をこれまで以上に推し進めます。
また、他の地元の県立高校とも合同の高大連携施策を企画し、その中心に本校があり続けます。
また、他地域の大学との連携も積極的に取り組みます。

6. 設置高等学校の中期計画の骨子

教育改革を支える仕組み作り

ここまでの中期計画、教育改革を、確実に実践していくための施策も同時に検討する必要があります。
そこで、以下のような施策を実行します。



【教員力の向上】

進学実績の向上のためには、それを実現するための教員の指導力の向上が不可欠です。
そのため、まずは外部研修への参加を積極的に促します。さらに、互いの授業を自由に見学して講評を言い合える環境にします。
そして、年次に関わらず模擬授業等を定期的実施し、常に授業力の向上を心がけます。
また、学科ごとの教材研究等も、これまで以上に強化します。



【教育環境の整備】

昨今の教育現場におけるICTの活用場面の進歩は目覚ましいものがあります。
当然、ツールを整備することで物事が解決するわけではないですが、目指す教育に必要なツールを整える必要があります。今後、詳細に検討を進めますが、アクティブラーニングの実践のためのハード面の整備とソフト面の導入を進めます。そして、それを最大活用するための教員への研修を行うだけでなく、生徒に向けても実施します。